

## シンポジウム：臨地実習前の OSCE

### 3. 臨地実習前の OSCE — 藤田保健衛生大学の試み —

雪 竹 潤\*

〔Key Words〕 OSCE、実技試験、評価課題、評価基準

## はじめに

客観的臨床能力試験：Objective Structured Clinical Examination (OSCE) は、臨床実習に参加する学生に必要とされる、判断力・技術力・マナーなど実際の現場で必要とされる臨床技能の習得を、適正に評価する方法であり、同一の評価基準下で評価者が評定し、点数化する実技試験である。

我国でも医学、歯学、薬学ではすでに必須なカリキュラムとなり、看護師、理学療法士などメディカルスタッフの養成課程においても採用されつつある。

本学においても臨床検査技師教育の一環として平成 28 年度より、OSCE のカリキュラム導入に際

し、平成 24 年度～平成 26 年度にかけトライアルを実施して、「実技試験の課題」や「運営方法」についての検討を行った。

## I. 対象と方法

## 1. 対象

平成 24 年度～平成 26 年度は本学科臨床実習前の 3 年生(約 100 人)を対象とし、2 グループに分けて、各 1 日ずつの計 2 日間で実技試験を実施した。

## 2. 実技試験の課題

課題として臨床検査技師が必要とされる基礎技術と知識を選び、以下の項目について実技試験を実施した(表)。

表 臨床実習直前 OSCE トライアル実施項目(平成 24 年～平成 26 年)

H 24	標準予防策としての手洗い	心電図検査および患者接遇	検査データ判読	採血手技
H 25	標準予防策としての手洗い	心電図検査および患者接遇	検査データ判読	血液塗抹標本作成
H 26	標準予防策としての手洗い	心電図検査および患者接遇	検査データ判読	ピペット操作

平成 24 年度～平成 26 年度は本学科臨床実習前の 3 年生を対象とした。

\*藤田保健衛生大学・医療科学部・臨床検査学科 yukitake@fujita-hu.ac.jp

### 3. 実施方法

#### a. OSCE のスケジュールと運営

ガイダンス講義、実技指導、各グループ別練習の時間を設け、試験日まで指導と練習を行った。試験当日は各実技試験のステーションに対し3ブースを設置し、1課題2~4分間で実技を行い、学生は3人の1グループでタイムスケジュールに従い、ステーションをローテーションした。評価はそれぞれのブースで教員1名が行い、1分間のフィードバックを実施した。全員の实技試験終了後、採点を行い基準点(70%)以下の学生に対して同日、再訓練と再試験を実施した。

#### b. 学生実施マニュアルの作成

OSCEに際し、ワーキンググループと学内実習担当の教員で実技試験用の学生実施マニュアルと評価表およびその評価基準を作成した。評価の項目として実技に加え、「患者接遇および身だしなみ」についてもその対象となるように考慮した。評価基準に関しては学生配布実施マニュアルとは別に評価者(教員)のための基準シートを設けた。

## II. 学生アンケート

臨地実習後に、学生に対してOSCEについて各実技試験の内容、および総合的評価についてのアンケートを実施した。その結果、多くの学生がそ

の必要性を認識していることが明らかとなり、一定の効果が見られた。

## III. 今後の課題

今後の課題においては、①評価者をはじめ、人員の確保、②評価者の評価基準を標準化するために教員のトレーニングを充実、③試験項目が「やるべき項目・方法」ではなく「運営できる項目・方法」になるなどの課題の妥当性、④自己トレーニング施設の不足、⑤カリキュラム変更や訓練時間の確保などが挙げられた。

## IV. まとめ

運営に関しては「課題の妥当性」や「課題全体の整合性」について、学内実習との互換性を考慮しながら、臨地実習後のAdvanced OSCEの導入も視野に入れ行うことが必須であると思われた(図1)。

また、大学教員と本学大学院職員が協働でOSCE運営に関わり、臨床現場の技師が評価者として、また「新規課題の立案」や「評価マニュアル作成」などに参画することで、運営スタッフの確保が望め、よりきめ細かいサポート体制を構築することが不可欠であると思われた。

今後の展望としては、より効果的な実践教育を考慮して見学型から参加型臨床実習<sup>1)</sup>を推進して

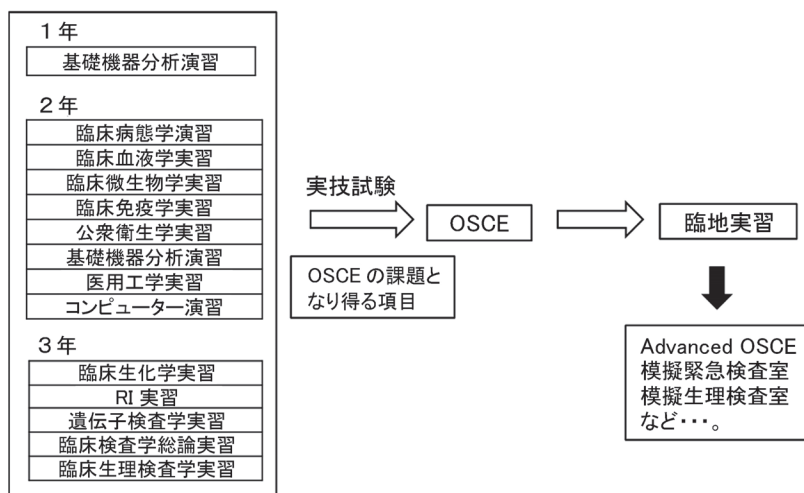


図1 本学の学内実習とOSCE

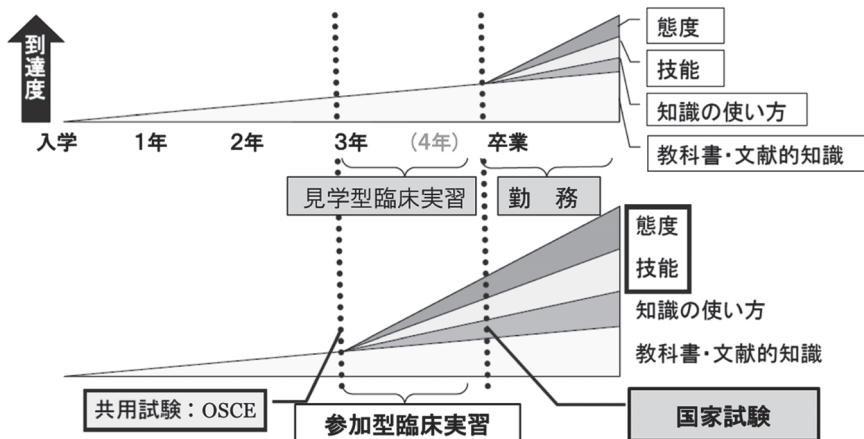


図2 参加型臨床実習とOSCE

見学型臨床実習から参加型臨床実習へとシフトして行くことで、  
入職後の到達度も向上すると考えられる。

行きたいと考えている(図2)。

また、本学だけでなく臨床検査技師の養成校でOSCEの経験を継続的に共有し、より良い臨床能力評価として、将来的には標準化へと繋がって行くことを望んでいる。

#### 参考資料

- 1) 北村 聖, 「医学系共用試験 OSCE について 概要と実施」第6回獣医学教育改革シンポジウム 2012; 9月16日